種目	本年度稲作のための前年度に於ける準備作業	苗代一切	本田荒起整地（挿秧まで一切）	挿秧	除草、施肥病蟲害防除	灌排水管理	刈取、運搬、乾燥、收納、扱落、籾乾燥	籾摺調製俵裝、後仕末其の他	合計	畜力使役日數
昭和十四年 家族	〇・四日	〇・七日	二・八日	一・四日	四・〇日	一・〇日	五・一日	一・六日	一七・〇日	—
常雇及手傳人	〇・〇	〇・〇	〇・一	〇・二	〇・一	〇・〇	〇・二	〇・一	〇・七	—
臨時雇	〇・〇	〇・〇	〇・一	〇・五	〇・三	〇・〇	〇・三	〇・一	一・三	—
計	〇・四	〇・七	三・〇	二・一	四・四	一・〇	五・六	一・八	一九・〇	一・三
昭和十三年 家族	〇・四	〇・七	二・八	一・四	三・九	〇・六	四・九	一・六	一六・三	—
常雇及手傳人	—	—	〇・二	〇・二	〇・二	—	〇・二	〇・一	〇・九	—
臨時雇	—	—	〇・一	〇・五	〇・二	—	〇・三	〇・一	一・二	—
計	〇・四	〇・七	三・一	二・一	四・三	〇・六	五・四	一・八	一八・四	一・三

二、昭和十三年　昭和十四年　稲作作業期別賃銀（臨時雇男子一日當）及畜力一日當賃借料比較

種目	本年度稲作のための前年度に於ける準備作業	苗代一切	本田荒起整地（挿秧まで一切）	挿秧	除草、施肥病蟲害防除	灌排水管理	刈取、運搬、乾燥、收納、扱落、籾乾燥	籾摺調製俵裝、後仕末其の他	平均	畜力使役日數
昭和十四年	一・四圓	一・五四圓	一・七五圓	一・九〇圓	一・六九圓	一・六〇圓	一・八一圓	一・七三圓	一・六八圓	三・一四圓
昭和十三年	一・〇九	一・一九	一・三六	一・四四	一・二九	一・二三	一・四八	一・三〇	一・二九	二・三四
十三年に對し十四年の增減	〇・三七	〇・三五	〇・三九	〇・四六	〇・四〇	〇・三七	〇・三三	〇・四三	〇・三九	〇・八〇

財團法人日本勞働科學研究所の「事變下の農村流出人口に關する調査」

財團法人日本勞働科學研究所農業勞働調査所に於ては事變下の農村流出人口に關する調査を企て、同研究所々員内海義夫氏の手により昭和十四年七月神奈川縣中郡成瀬村に就いて之を行つた。

蓋し戰時下に於ける農村は種々の意味に於て、勞力問題の重大性に當面してゐる。その中でも、農村から都市へ或は工業へ商業へ流出する人口の數は相當量に達してゐる。この流出人口によつて、生産力の擴充と、膨脹する工業都市の人口が支へられてゆくのであるが、流出人口の性質如何については、十分にこれを見極め、以て農業生産力を確保し、兼ねて工業勞働力の新らしき編成を期しなくてはならないのである。

その調査結果の大要は次の如し

本村の戸數四八四戸のうち半數弱即ち約四六%は職業關係による不在家族員を有してゐる。これら不在家族員の流出密度は、小作農において大きく自作農において小であり、耕作面積の小なるものに大きく、その大なるものに小さい、といふ一般法則と大體において一致してゐる。

本村より流出したる不在家族員の九一%は農家の子弟であり、就中小作農および自小作農の子弟が多い。

性別には男五二%、女四八%となり、年齡的には男は二〇—二五才、女は一五—二〇才を最高とする。そして男女共に一五—二五才が大部分を占めてゐる。

戸主との續柄について見れば不在家族員が自ら戸主であるかまたはその長男である場合は、男子總數の一一%にあたる。

不在家族員の教育程度は、男子は高小卒が多く女子は尋小卒が多い。性による教育程度の差はかなり甚しく、且階級による差も明瞭である。

不在家族員の流出當時の年齢は男女ともに一五―一六才を最高としてその前後に分布してゐる。

不在家族員の行先及び職業をみるに、男子は職工及び商店が同數にして最も多く、これらは大部分が東京市及び縣内各市に出てゐる。女子は女中になるものが壓倒的に多く、これもその大部分は都市に集つてゐる。これらの主要職業は自作からも小作からも多く集つてゐるがそれ以外の職業にあつては、例へば男子に於ける作男、人夫、職人、女子における作女、子守等の下級職業には小作農の子女が多く、サラリーマン的職業は自作農及び非農家の子弟に多い。

財團法人日本勞働科學研究所
昭和十五年度研究項目

財團法人日本勞働科學研究所に於ては昭和十五年二月所員會議に於て本年度研究項目を左の如く決定した。

昭和十五年度研究項目

一、體力問題
（訓練、體力評價、文化的評價）

二、勞働生理
1 基礎新陳代謝
2 勞働時間問題
3 血液ガス
4 肺胞氣竝に摂出量
5 感覺生理
6 農業勞働精力學的研究

三、勞働生理

四、勞働生理
1 疲勞と條件反射
2 自律神經機序と血液caKとの關係

五、產業心理
1 技能の要因に關する分析的研究
2 技能習熟の能力竝に過程に關する研究
習熟に於ける活機能の變容過程の追及（實驗室）
3 技能に於ける性格の意義及檢査方法の研究
イ、各種作業力檢査の設定
ロ、性格と作業能力との關係に關する研究

六、體質及性格
1 性格異常者の體質的特徴
2 性格形成及再形成に關する研究

七、作業心理、災害
1 作業と感覺の問題卽ち作業に必要なる知覺を心理學的に研究する
イ、工場災害發生の原因（聽覺、觸覺、運動感覺等に基く知覺と作業特に災害との關係を明にする）
ロ、作業と照明（明るさの物體の影、色彩に基く知覺と作業との關係を明かにする）
ハ、腦波（EKG）と作業との關係、主として實驗的研究
2 作業研究
作業者の生活時間研究

八、作業と音響
1 雜音を聞きわける耳の訓練について
イ、基礎になる雜音を合成して標準をきめること
ロ、實際の雜音を錄音して研究すること
2 作業と作業から起る雜音との關係に就て

九、環境
1 輻射熱の人體機能に及ぼす影響
2 氣候と人體機能との關係
3 有害ガス分析標準法の確立
4 物理的條件を利用せる瓦斯分析器の組立竝にその性能試驗
5 作業服の研究

十、勞働者の住宅及工場建築
1 煙箱法による工場形態と換氣方法に關する模型實驗
2 水槽による外氣流が工場形態により室内氣流に及ぼす影響についての二次元的模型實驗
3 Coverを設置せるRayon or Staple Fiber紡絲機のSuction狀況とCover内部に於ける氣流狀況についてのFull Sizeの模型實驗
4 以上諸實驗に關する物理的基礎實驗

十一、職業病
1 有害物質による健康障碍の實驗的研究
（一）ヂニトロクロールベンツオルに關して
イ、皮膚吸收度（就中發汗との關係）
病理組織學的研究
生化學的研究
ロ、造血器官の病理組織學的研究
ハ、メタヘモグロビンとヴイタミンC
（二）硫化物
イ、造血器官の病理組織學的研究
ロ、腦髓の病理組織的研究
ハ、副腎變化に就て
病理組織學的